

第1回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

日 時 平成29年6月28日(水) 午後6時00分～午後8時00分

場 所 第二庁舎8階 801会議室

出席委員 7人

委員長 渡 邊 嘉二郎 委員

副委員長 小 川 順 弘 委員

委 員 橋 田 壤 志 委員 松 本 敏 朗 委員

小 宮 貴 大 委員 沼 崎 明 大 委員

天 野 建 司 委員

欠席委員 2人

鴨 下 明 子 委員 本 間 紀 行 委員

事務局職員

企画政策課長 三 浦 真

企画政策課企画政策係長 古 賀 誠

企画政策課主査 三 島 雄 介

企画政策課企画政策係主事 齋 藤 彬 子

傍 聴 者 0人

(午後6時00分開会)

◎三浦企画政策課長 それでは、委員長、定刻でございますので、事務局のほうから発言させていただきます。

皆様、改めまして、こんばんは。本日はよろしくお願いたします。

会議に先立ちまして、事務局のほうから何点かご説明を申し上げたいと思います。

本日は、お忙しいところ、ご出席を賜りまして、ありがとうございます。事務局の企画政策課長、三浦と申します。今年度、1年間、またよろしくお願いたします。

続きまして、会議に先立ちまして、事務局のほうも4月1日付で人事異動がございましたので、改めて、当委員会を担当いたします職員のほうを紹介させていただきたいと存じます。まず、私の隣、企画政策課主査、三島でございます。

◎三島企画政策課主査 新しく事務局を担当させていただきます三島です。どうぞよろしくお願いたします。

◎三浦企画政策課長 続きまして、企画政策課係長、古賀でございます。

◎古賀企画政策課係長 古賀でございます。昨年度に引き続き、よろしくお願いたします。

◎三浦企画政策課長 企画政策課主事、齋藤でございます。

◎齋藤企画政策課主事 本年度も、どうぞよろしくお願ひいたします。

◎三浦企画政策課長 原則として、4人で担当してまいります。よろしくお願ひいたします。

なお、本日、残念ながら、鴨下委員、それから本間委員から事前にご連絡をいただきまして、本日は欠席をさせていただきたいということでございました。あらかじめご了承をお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、資料の確認をお願いしたいと存じます。

まず、お手元にあらかじめ配付をさせていただきました資料でございます。小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果一覧表。よろしいでしょうか。続きまして、ホチキス留めになってございますけれども、まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シートの取りまとめ、各評価シートの1から39までのホチキス留めのものでございます。

本日、机上のほうに配付をさせていただきましたものをご紹介いたします。資料番号2でございます。小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略、59ページの写しということで、後ほどご説明いたしますけれども、39項目がカテゴリー別になっているシートの写しでございます。資料3、江戸東京でおもてなし事業実施ビジョン概要版、こちらも後ほどご説明いたします。それから、ナンバー4からナンバー6でございますけれども、ナンバー4、評価シート12、ナンバー5、評価シート16、ナンバー6、評価シートの36ということで、若干、ちょっと差し替えをお願いしてございますので、こちらも後ほどご説明をさせていただきたいと思ひいます。

本日、配付をいたしました資料につきまして、机上にご用意させていただきました。過不足等ございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、委員長から一言ご挨拶を賜りまして、議事に進みたいと思ひいます。委員長、よろしくお願ひいたします。

◎渡邊委員長 前年度に引き続き、また今年度も、委員も構成も同じですので、また仲よくやっっていければと思ひっています。

昨年度は最初の年ということで、全体の評価すべき対象についての説明があったんですけども、今年度は去年の続きということで、それはなしで、直接、去年の第2回目からの会議みたいな格好で進めさせていただければと思ひいます。

事務局のほうで、皆さんのご意見を集約したものを整理してありますので、今日は主として、もう少し、こう書いてほしいとか、こう書いたほうが正確じゃないのかという、そういう議論になるかと思うんですけども、ただ、非常によくまとめてくれていて、ぱっと見た感じでは、よくまとまっているなという感じでした。ただ、ご意見があれば、積極的にお願ひしたいと、そんなふうに入っています。よろしくお願ひいたします。

じゃ、よろしいですか。

◎三浦企画政策課長 はい。

◎渡邊委員長 それでは、本日の議題に従いまして、次が「小金井市まち・ひと・しごと総合

戦略」施策の効果検証についてということで、この議題に入りたいと思います。

それに入る前に、先ほどの資料にもちょっとありましたように、若干の追加、変更があるということですので、事務局のほうから。

◎三浦企画政策課長 それでは、事務局より、本日の会議の進め方につきましてご説明を申し上げます。

本日、お持ちいただきました評価シート、取りまとめ、こちらをご覧ください。委員の皆様より、全39シートの各委員の評価と各委員評価理由をご記載いただきまして、事務局にて、委員評価取りまとめ案を作成してございます。これから、本日及び次回、または次々回も含めまして、委員の皆様方に小金井市まち・ひと・しごと総合戦略施策の効果検証を行っていただき、委員評価を作成してまいりたいと考えてございます。

続きまして、皆様のお手元に小金井市人口ビジョン、まち・ひと・しごと総合戦略、59ページの資料の抜粋を配付させていただいてございます。あわせてご覧ください。

本日以降、検証につきましては、前回のこの会議と同様に、基本目標を3つに区分いたしまして、各区分、30分程度をめぐにご意見を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

続きまして、先ほど申し上げました追加、変更箇所についてご説明を申し上げます。お手元の資料、評価シートの12でございます。こちらをご覧ください。資料番号4番でございます。こちらにつきましては、新たに追加となった事業でございます。この事業につきましては、平成28年度に新たに国の補助事業の採択を受けまして、審議項目となったため、評価対象となる実績が発生してございませんので、今回につきましては、評価の対象外といたしまして、次年度以降、来年度以降、評価をお願いしたいと考えているところでございます。

なお、この事業の位置づけにつきましては、先ほど59ページの抜粋の資料を配付してございますが、基本目標1の基本的方向2の中の小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進、この中に1つ加えて、今後の評価にしたいと考えてございますけれども、皆様、いかがでしょうか。よろしいですか。では、そのように決定をさせていただきます。

続きまして、変更箇所についてご説明いたします。皆様、ご持参をいただいた評価シートのほうをご覧くださいでしょうか。評価シート8でございます。こちらの評価のところ、当初、Bというふうに評価をさせていただいたところでございますが、内容を鑑みまして、担当課と調整をしたところ、Cのほうに修正をしたいということで、平成28年度評価はCということでご議論をいただきたいと思っております。よろしいでしょうか。まず1点で、こちらでございます。

続きまして、評価シートの25でございます。こちらにつきましては、月間数値のところでございますけれども、担当課から連絡がございまして、当初は16.7%の指標となつてございますが、正しくは13%というところで、こちらにも訂正をさせていただきたいと思っております。

あと2点ほど変更箇所がございます。

続きまして、本日配付をいたしました、お手元の資料の5でございます。こちらにつきましては、担当課から連絡をいただきまして、真ん中のところ、結果の説明につきまして、文言を変更してございます。こちらは、評価対象となる待機児童の人数の確定が毎年4月1日ということもございまして、評価対象年度の実績に対して1年遅れてしまうという状況がございまして、評価指標のほかに、この本文のところでお書きという形で、新たに29年4月1日の状況を記載させていただいております。

お手元の資料6でございます。こちらは、申し訳ございません、担当課との調整によりまして、結果、評価の内容等々が大きく変更になってございます。大変申し訳ございませんでした。本日、こちらは委員の皆様、初めてご送付させていただくこととなりますので、事務局といたしましては、大変恐縮でございますけれども、差し替えということにさせていただいて、本日は変更箇所のみの確認とご理解いただきまして、各委員の評価を最後に取りまとめの上、第2回以降、もしくは次回の会で評価の検討をお願いしたいと思っております。したがって、資料6については、本日お示しをさせていただくのみということで、今日の評価というところから除外をいただきたいなというふうに考えているところでございます。

変更箇所、修正箇所の説明は以上でございます。不手際がございまして、大変申し訳ございません。よろしくお願いたします。

以上でございます。

◎渡邊委員長 今日、若干、修正があったわけで、それを受けた格好で、今日の評価で全ての項目については評価をすると、こういうことになろうかと思っておりますので、ご理解ください。

何か今の変更について質問はございますでしょうか。よろしゅうございますね。確認できましたね。

それでは、早速ですけれども、小金井市の魅力を発信し、交流人口の増大を図ることにより、地域の活性化につながるまちづくりということで、大体、どれくらい時間がかかるかわかりませんが、これについて議論したいと思っております。

評価シートでいきますと、基本目標の対象である評価シート1から15までですね。ご意見があればということで、事務局のほうで、これについて何かコメントはありますか。なければ。

◎三浦企画政策課長 特にございません。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。じゃ、評価シートの1から15のところを開いてください。1はあるの。

◎三浦企画政策課長 1は、まだ数値未確定のため、資料自体がまだ……。

◎渡邊委員長 ない。

◎三浦企画政策課長 はい。

◎渡邊委員長 2からですね。

◎三浦企画政策課長 はい。2からです。

◎渡邊委員長 評価シート番号2ということで、本日の資料で行くと1-2なんですけれども、

1 ページ開かれましたか。これは、指標としては住居専用地域の割合ということで、指標の説明ということで、ここにあるようなことです。それで、平成28年度は用途地域の都市計画の変更がなかったために、住居専用地域の割合が変更がなかったというコメントで、これに対して、委員の方から、渡邊、小川さん、松本さん、鴨下さん、こんなコメントをいただいております。何かこれについてコメント、松本さんはバツテンをつけていますので、何かございますか。

◎松本委員 主体的に決められない話をここに入れること自体、違和感があるので、去年もそういうコメントをしたと思うんですけども、同じです。ちょっと違うんじゃないかなという気がします。

◎渡邊委員長 私も同じ感じだったんですけども、行政のほうで、自ら評価をされているから、それはそれでいいかなというふうにコメントをしたんですけども。

あとはございますか。全体のご意見をまとめて、計画どおりに進捗していくものの、まちづくりの推進に向けたさまざまな取組に期待したいという格好でまとめてありますけれども、こういうまとめ方でいかがですか。よろしゅうございますか。

じゃ、次が評価シート3番ということでございます。これは市街地再開発事業施行完了地区数ということで、これが指標になって、不足している道路、公園などの公共施設を計画的に整備するとともに、良好な生活環境を備えた都市型住宅の供給や、業務施設の近代化を図るなど、安全かつ快適な生活空間を創出する総合的まちづくりを行った地区数ということでございます。

評価は、行政のほうではCということになっておりまして、さまざまなコメントがございませう。私は、さまざまな困難を伴う事業であり、進捗について、よく見極めながら進めるべきであり、担当レベルがシートを評価することは、多分、適切じゃないだろうかとはいなかなか言えないかなということで、あと、松本さんが、工事等が進捗していることについては一定の評価ができようが、地区数という目標設定自身に疑問があると。経年観測など、何も無いようなことではないだろうかとということで、要するに、K P I 自身、Key Performance Indicator の設定自身がいかげんなものかというコメントかと思えます。

今日は本間さんは来ていないんですけども、たくさん書かれていますので、最終的な評価としてはCとなるが、適切な支援を実施しており、進捗はおおむね良好であると。引き続き、周辺地域に配慮した、工夫をした取組に期待したいという評価です。

この松本さんの、いわゆる指標として適切かどうかというのは、結構、随所に見えるんですけども、それは、今後、少し検討してもらおうということ。私も、ちょっと今、P D C A サイクルという本を書いています、Key Performance Indicator の設定の難しさというのをよくわかっていて、本当は肝になるのを設定しなきゃいけないんですけども、行政としては、数値になりやすいものをどうしても選んでしまうというのがあって、その両方の悩みはよくわかるんです。いかがでしょうか。こういう最終的なまとめ方でよろしゅうございますか。ありがとうございました。

評価シートの4ということで、東小金井駅北口土地区画整理事業の建物移転進捗率ということが指標で、東小金井駅の北口の土地利用整備事業の業務移転の物件に対する移転完了がどれくらいかということでございます。

いろいろコメントがございます。沼崎さんも丸で、順調に進捗している。平成29年度に予定している建物の移転はどの程度か。また、困難地権者はどれくらいあるのか。説得の見込みがあるのかというような疑問を投げかけられて、私は、地権者との対応は慎重にあるべきで、結果として68%というのは、むしろ妥当と言えるんじゃないだろうかというふうに感じたところで、あまり、これをして、これを100%にしたら大変なことになるし、さりとて、努力しないで50%だということはないかなということで、こういうことにさせていただきました。

目標達成に向けて、おおむね順調に推移していると。困難地権者の具体的な課題の確認と対応に取り組んでいきたいと。また、並行して、駅周辺の道路整備を早目に進めていきたいという格好で整理されているということでございますけれども、いかがですか。これについて、もう少し何か。

◎沼崎委員 数字自体は順調に進捗しているの、丸とさせていただきましたが、私も実際、このような業務に携わったことがあるわけじゃないので、実際、困難地権者という表現をされて、どういうところが課題で、100%に達する見込みはどの程度あるかというのは、イメージができないので、このような質問をさせていただきました。

◎渡邊委員長 何かコメントはありますか。

◎三浦企画政策課長 いわゆる区画整理事業、中にはスムーズに行く方もいらっしゃいますし、ちょっと調整が必要な方もいらっしゃいます。そのレベル感によって、このような言い方を多分しているんだろうと思います。

その換地ベース、土地を動かしていくベースでいくと、おおむね全体の68%が終了していて、残り30%程度ということになってございます。

ここからが、70%は比較的、ご理解をいただいた方が動いていますので、残りの30%の方々は、ちょっとご理解いただくのに時間がかかる可能性があるかもしれないなというところで、ご理解を賜りたいと思います。

◎渡邊委員長 はい。

◎三浦企画政策課長 以上です。

◎小川委員 表現が難しいな。具体的に言えば、こうこうこうと、いろんな地元の絡みとか、いろんなことがあるだけに、当局としては今のよう言い方しかできない。

◎渡邊委員長 あそこは昔からいろいろあったところですから、慎重にやったほうがいいと僕は思う。逆に言うと、まさに68%はすごいなと。70%まで、すぐいくかもしれないけれども、その後は結構、苦勞するかなという覚悟を持っているかなと。だから、こういう表現。

◎小宮委員 私も、すごいなと。10%上がっていたので、すごいなと思ったんですけども、多分、ここから先なんだろうなというスケジュール感を持ってという意見は出させていただきます。

たんですけれども、ここから先が、数字が非常に厳しく出てくるんだろうと。私も、そういう方々と仕事上、話をいっぱいしているの、慎重にやっていただければということで、よろしくをお願いします。

◎渡邊委員長 具体的な課題の確認と対応に取り組んでいきたいということで、これが慎重の中身ですね。こういう表現でよろしいですか。次が評価シートの6でございます。これは東小金井事業創造センター卒所予定者の市内の定着率ということで、事業センターで学んだ人が小金井でどれだけ頑張っているかということでございます。

これもいろんなご意見がありまして、私自身は、別に小金井に定着しなくても、どこでも頑張ってもらえば、小金井発ということでいいじゃないと。小金井、度量が広いなど。そういうのもあったんですけれども、ただ、十分に数値が上昇しているとか、いろんな評価がございませぬ。

これについて、一応、取りまとめとして、適切な取組を実施しており、結果はおおむね良好と思われる。卒所した事業者の立地選びの要因を分析し、今後の対策につなげていただきたいという、こういう格好でまとめていただいている。このまとめ方、いかがですか。この格好でよろしゅうございますか。じゃ、一応、こういうまとめ方ということにさせていただきます。

評価シートの7番でございます。これは観光協会のホームページのアクセス数ということで、小金井市観光協会、いわゆるホームページのアクセスということで、一応、7万9,196件ということで、行政としてはBという評価でございます。ホームページ更新を専門に行う人員を配置したことから、フェイスブックを含むホームページの内容がさらに充実し、アクセス数の増加につながったということの説明に対して、いろんなご意見があります。

今日は鴨下さんは見えていないんですけれども、バツで、人員配置し、内容が充実したならば、アクセス数をもっと上がるべきではないかというコメントもいただいております。天野さんも、増加率として人員増による効果があらわれていないようだが、リニューアル後に期待したいという言葉で書かれております。

全体的にまとめると、目標達成に向けて、積極的に取り組んでいるものの、人員の増加と内容の充実に対し、アクセス数の増加が限定的であった。リニューアル後の増加に期待したい。あわせて、イベント自体の魅力向上や、市内高等教育機関、大学、専門学校との連携により、若者の意見を取り入れる等、取り組んでいきたいという格好で整理されております。みんな若いんですけれども、若者代表の橋田さん、いかがですか。コメントはございませんか。

◎橋田委員 アクセス数を増やしたいのであれば、やはり見るのを日本全国に向けてとか世界に向けてとか、どこに向けてというのをもっと増やす必要があるし、それには、取り上げられる必要があるイベント自体が、そうすると、もっと魅力がある、世界の人とかにも、小金井に行けばこういうイベントが見られるとかというのを、イベント自体をもっと魅力を増やせば、マスコミとかもそれを取り上げてくれるかもしれないと僕は思うので、アクセス数を爆発的にもっと増やしたいのであれば、そっちの方向にも力を入れるべきだと思います。

◎渡邊委員長 この表現で、その意向は包含されていますか。

◎橋田委員 そうですね。そういうことです。

◎渡邊委員長 わかりました。

渡邊ですけれども、私も、リンクを貼ることについては協力したいなと思っていて、観光協会のもは日本語になっています。少なくとも、中身までは英語にできないと思うので、英語で、こういうのがありますよと書いて、ここに行きなさいと。ただし、これは日本語で書かれていますからという格好で紹介してみたいなということをやっと考えたりしているんです。今後、我々も協力しながらということ。

肝心の大学、専門学校との連携により、若手の意見を取り入れる等、取り組みたい、こういうところがうたわれているので、こういう格好でいかがですか。あそこの専門学校の校長先生も、うちの若いのを使ってほしいと言っていましたね。（「工学院」と呼ぶ者あり）ええ。あそこがちょうどメディア学科みたいなのがあって、ちょうどフィールドスタディーになるということですね。ありがとうございます。

8番、地域情報発信サイトの市ホームページへの連携ということで、市ホームページ内における市に関する情報を発信する他団体へのリンク数ということで、先ほどの小金井市観光協会でしたけれども、今度は市のホームページに対するリンクということでございます。これが評価が変わったんですね。

◎三浦企画政策課長 以前はBでした。BだったものがCにここで変更となりましたので、委員の皆様から、Bのときの評価としていただいている言葉になります。

◎渡邊委員長 いろんな意見があるわけですがけれども、僕が書いたのは、リンクを増やすことは技術的に容易なことである。ただし、行政としてターゲットとするサイトがリンクすべきか否かの基準は明確にしておく必要があるんじゃないのか。多分あると思うんですけれども、こういうコメントをさせてもらいました。松本さんから、ずっと一環して、こういうことが指標になるかどうかというコメントがございます。小川さんは、高度な連携を目指して、大学等の活用をと。

全体としては、リンクを増やすことは技術的に容易であると。市として発信していただきたい情報、メッセージを明確にして、戦略的シティプロモーションの検討が必要であると。高度な連携を目指し、大学等との協働を検討していきたいという格好で整理されておりますけれども、いかがでしょうか。意を尽くされていますか。

◎小宮委員 逆に聞きたいんですけれども、こういう拡充という目標を立てること自体、専門的な観点からいって、どうなんですか。

◎渡邊委員長 さっきの話で、Key Performance Indicator として適正かどうかという問題があると思うんです。

◎小宮委員 そもそもこういうテーマを掲げること自体が、指標に取り上げること自体が疑問だと思えますけれども、その目標として、拡充という目標を立てるところは、果たしてあり得

るのという二重の疑問を感じるテーマじゃないのかなと思って見ているんですけども、これはやればできる話ですね。要は、そういうふうに訴えるものがあるかというのは重要な話なので、むしろそっちのほうにアプローチしていくのが先だと思うんです。こんなことにエネルギーをかけるということ自体が疑問です。

◎**渡邊委員長** やっぱり何かリンクしようと思ったときに、手続をとらなきゃいけないくて、手続をとるときにどうなのというあたりも、何となくそこがブレーキになるとか、行く前からなんですけれども。

◎**小宮委員** じゃ、そういう規制を外す、軽減するというのは、これの1つのサポート指標になるということですか。

◎**渡邊委員長** じゃないかと僕はちょっと思ったりしているんですけども。

◎**小川委員** 今のリンクの件なんですけれども、リンクをアメーバのように広げていくというのは、技術的にそれほど難しいことではないと思うんですが、ただ、それが数が多ければいいというものではないと思う。ここに大学との連携というようなことを書いたのは、例えば、具体的なところで言うと、学芸大学のいろんな事業が小金井市の学校とか子どもに対して行われているというような、その結果に対して、大学のそのホームページにつながって、うちの子どもがこの間、アンケートをとって何かやったというのはここにつながっているのねというようなことになっていけばいいなというふうに感じているところです。

何でもかんでもリンクを広げていくというのは問題があると思うんですけども、市がかかわっていることに関して、つながっていくというのは、いいのかなというふうに思っているんですが。

◎**渡邊委員長** ありがとうございます。そういう思いが最後の文章に含まれているかどうかですけれども、いかがですか。戦力的シティプロモーションの検討が必要であるという中で考えてもらうのかなという気がしますが。

◎**沼崎委員** 今、まちづくりグループというところで仕事をしている中で、各自治体がどういう情報を発信していきたいかというヒアリングをしております。発信していきたい施策とかイベントが明確になっている自治体と、特に全然定まっていない自治体に、結構、差があるように感じます。例えば町田市だと子育て支援に関する情報がプライオリティーが一番高いところで、今、結構、情報発信をしているんですけども、小金井市としてはどこが最優先で、どういう優先順位で情報を発信していくことを考えていらっしゃるのかなというところが委員としては気になるところではございます。

◎**渡邊委員長** 具体的にシティプロモーションの像をはっきりして、それでリンクもプライオリティーをつけてくださいと、そういうことですか。

◎**沼崎委員** 優先順位が明確になっていけば、多分、そこと相乗効果が一番図れるようなところとリンクを貼れば、どんどん強化はされていくかなというふうに思いますので、そこがぶれぶれになっているとよくないかなと。

◎**渡邊委員長** どうでしょうか。今言ったようなことを議事録に残しておいてもらいたいです。シティプロモーションの中の項目の順位づけみたいなものを検討してもらおうということで、表現としてはこういう格好ということで、まとめるということで、いかがですか。これ以上、細かく書くと、また、わーっとなっちゃう感じがする。

◎**小川委員** それでいいです。

◎**渡邊委員長** じゃ、シートナンバーの8はこれでいいということにして、次がシートナンバーの9でございます。桜まつり等の来場者数、桜まつり、阿波おどり大会、お月見のつどいの来場者数の合計ということでございます。

28年度は21万9,000、ほぼ22万ということでございます。いろんな自然環境、天候の影響等もあったと、こういうことを書いてあるわけですがけれども、評価として、いろんな意見がありますが、沼崎さん、こういうコメント、どうですか。

◎**沼崎委員** コメントは、このようなまとめ方で問題ないかなとは思いますが。

◎**渡邊委員長** 小川先生、いかがですか。こういうコメントをされたのは、先生自身がされていすけれども。開催時期や天候等の諸条件がある中で、集客の工夫を実施していると。目標達成に向け、大学生などの若手の意見を取り入れた企画や、ジェイコム等の積極的活用により、広報面での充実に取り組んでいただきたいという、こういう格好で整理されております。ジェイコムというのが入っていて、こういうまとめ方でいかがですか。よろしゅうございますか。

◎**沼崎委員** 1つ参考までに、イマタマというサイトがございまして、多摩地域のいろんなイベントを発信しているサイトなんですけれども、常時、100以上、毎月イベントが掲載されているようなサイトになります。インスタグラムもやっており、多摩地域のいろんな祭りのきれいな写真とか景色の写真とかを沢山載せていて、若者からの反響もかなりあるようです。そういうところに、桜まつりとか阿波おどりとかのすてきな写真をアップすれば、多分、来場者の増加に寄与できるのかなというふうに思いますので、参考までに情報提供させていただきました。イマタマというサイトをぜひ見ていただければ。

◎**渡邊委員長** ありがとうございます。具体的な情報をいただいたわけですから、今後、検討していただけたらと思います。

次、評価シートナンバーの11ということで、はけの森美術館の入館者数という、これが Key Performance、指標でございます。はけの森美術館にて開催した展覧会の観覧や、ワークショップ等に参加する入館者の数ということで、これは非常に長い行政のコメントがございまして。入館者が昨年度6,454で、今年4,207ということで減少をしていて、D評価ということになっているわけでありすけれども、それについて、いろんなコメントがございまして。

橋田さんがバッテンで、何かコメントございまして。ここに広報活動のやり方を考えるべきということで書いてありますけれども。

◎**橋田委員** 結果の説明のところのコメントを読むに、何か効果的な広報活動を行えずみたいな、ちょっと諦めに近いようなことが書いてあったので、予算とかの関係もあるとは思って

すけれども、その中でもこういうことをしたという工夫みたいなものがもう少しあればと思いました。

◎渡邊委員長 そういう意味では、鴨下さんも同じような意見ですね。僕は、人数が減ることはどうでもよくて、質が維持できればいいという考え方なんです。少人数でも高品質のものがあればいいじゃないかということで、ちょっと書いたんですけれども、全体として、これをまとめていただいたのが、これは三角とかバッテンが多くて、丸が全然なかったんですけれども、利用者の大幅な減少は大変残念に思うと。その中でも、小中学校の鑑賞教室や職場体験学習を実施しており、継続して取り組んでほしいと。さらに、喫茶店の再開も実現し、魅力の創出に期待したいと。予算的な課題により、単独取組が難しいものの、周辺施設との協働や地域イベントとの連携などを工夫し、広報活動に取り組んでいただきたいという格好で整理されております。ちょっと辛目のコメントになっているかと思えますけれども、市のほうで自らDと評価しているから、それでいいのかなと思うんですけれども、いかがですか。お願いします。

◎小川委員 質問なんですけれども、例えば、この入館者数を増やすということに関して、予算的な裏づけとか、これくらいは考えているんだとかというような具体的なことというのはあるんですか。

◎三浦企画政策課長 予算的なというよりも、28年度は当初予算が通らなかったのがここに書いてあります。29年度につきましては、当初予算をご議決いただいて、通常どおり動かしております。美術館さんのほうで実施される企画展というんですか、そういうものも通常のスケジュールどおりに動いていきますので、28年度と29年度はかなり状況が違うと思います。

予算的にということになりますと、その企画展の規模等々になりますので、一概に、支えられるか否かというお話にはなりにくいんですけれども、そこは魅力のある取組で、経費は安くというところは、担当課に要望はしてございます。

◎小川委員 今お聞きしたのは、私は、学校の立場で考えたんですけれども、ここで鑑賞教室とかを行っているということなんですけれども、対象は、小学校に関しては4年生だけですね。中学校に関しても1学年だけと。何で全学年、低学年は難しいにしても、4年生以上、3年生以上にして、実施すれば、人数的なことではかなり増えるだろうと思うんですが、学校で何で、なかなかうまくいかないかという、鑑賞教室で、例えば、はけの森美術館に1時間いる。そこで1時間の授業をするということに関して言うと、そこまで行って、帰ってくる時間のことを考えると、時間的にコマ数がだんだん足りなくなってきちゃうんです。授業時間。

今、工夫していただきたいのは、バスがあるといいよねと。というような予算がとられるといいですねと。学校間を往復できるようなバスがあると、随分違うんじゃないか。例えば緑小や二小が歩いてここまで来るといようなことを考えると、結構、きついよねということがあって、今、小学校のことに関して言うと、図工部の先生がかなり一生懸命になって、時間の配分をしたりとか、効率的な動きを考えているようなんですけれども、それが中高学年も鑑賞教

室としてできるような配慮ができると、全市で考えると、児童数のことを考えると、随分、増えるなと思いました。そのためにも、バスのような予算をとっていただけるというのも1つかなと思いました。

◎**渡邊委員長** バスを買うというよりは、どこかに頼むという感じですか。

◎**小川委員** そうですね。実際にやってみて、行った子は、また行っているんです。自分たちの近くにこういうところがあったというようなことがわかってというようなところで、結構、子どものリターンする率は高いです。あと、おうちの人と一緒にいったというような、もう一回、おうちの人と行ってきましたというような、二小なんかでもそうだったんです。

◎**渡邊委員長** 松本さんのコメントの中で、括弧のところが、地域の一体的な開発があれば別だがということで、そのことが多分、このところに積極的な意味での地域と、単独取組は難しいものの、開発施設との協働や地域イベントとの連携などを工夫して、広報に取り組んでいただきたいということで生かされているのかなと思ったんですけれども、こういうことでよしいですか。

◎**松本委員** 私も見にいつてきたんですけれども、崖の木立の間に隠れるように、ひっそりとたたずんでいるというふうな、そういう美術館ですね。おっしゃるように、非常にアクセスが悪いので、そこそこの人数を吸引していくというのは難しいんじゃないのかなというふうに思います。何か工夫しないと、人数を増やすということだったら難しいんじゃないのかなと思います。ちょっと離れると公園とか運動施設とかがありますね。そういうところと何か組み合わせ、学校で言えば美術と体育と抱き合わせでやるとか、川原でご飯の作り方をやるとか、何か工夫しないと、なかなか人を集めるということには限界があるのかなと思います。

今、あそこは崖を崩して道路を通すという話があるようですが、そういうこととは美術館運営に何か関係してくるんですか。

◎**三浦企画政策課長** 都市計画道路線が入っているのは間違いないんですけれども、あそこが直接、その道路線上にあるのかどうか、ちょっとごめんなさい、私自身は把握をしていないので、明確な答弁は控えたいんですが、確かに、はけ、崖地のところ、あそこを保全しようという方々にはご好評ですけれども、都市計画道路の話は逆に不評というところは事実としてあるかと思います。ちょっとすみません、あそこが計画線上、入っているのかどうか、ちょっと見てみないとわからないです。すみません。

◎**小宮委員** 景観としては雄大なところですね。こちらのほうでは唯一、景観としてはすばらしいというか。

◎**渡邊委員長** たしか法政大学の道をまっすぐ行くという予定ですね。

◎**三浦企画政策課長** 縦と横と、そうですね。

◎**渡邊委員長** だから、多分、この美術館はもっと西側ですね。

◎**三浦企画政策課長** 次回、確認しておきます。すみません。

◎**渡邊委員長** いかがですか。こういう格好の整理ですけれども。

じゃ、次、13番に入ります。市民協働支援センター準備室の相談件数ということで、たくさんA評価で書いてありまして、一昨年が115件で、昨年が147件ということで、増えているということで、A評価ということでございます。

いろんな前向きなコメントがあって、最終的には、施設の閉鎖、移転の中で相談件数が増加したことは評価したいと。今後は、支援の質の向上と支援メニュー拡充を図り、地域の課題を地域自ら解決して、具体策を構築していただきたいという、こういう格好でまとめてもらったということですけども、いかがですか。よろしいですか。

14番、これは国際交流事業の参加人数ということで、一昨年が271で、昨年が265、横ばいということで、B評価ということでございました。いろいろあって、それに対して、いろんなコメントをいただいております。小川先生は、農工大、外語大との連携を図りたいとか、大学との連携みたいなこと。

最終的には、うどん打ち体験会は参加者の減少や小金井の独自性もなく、具体的な周知の検討もなされていないため、再度検討していただきたいと。市内大学等の留学生や、市内の奉仕団体との連携を図り、周知の工夫等に取り組んでほしいと。また、オリンピック・パラリンピックも視野に入れて、他市を含めた取組を検討してほしいということで、天野さんのほうからオリパラという言葉があって、それも入っているということだと思います。それから、私のほうから、市内にある奉仕団体も、国際交流というのをいろいろやっているから、ちょっとそういうのも入れてという感じでまとめさせていただきました。コメントはいかがですか。何かご意見があったらお願いします。

◎小川委員 オリパラなので、小金井は、今度、どこの応援を指定されていますか。

◎三浦企画政策課長 オリンピックの関係でございます。小金井市は外国との姉妹都市とか、そういうお約束ごとがないので、今、どこの国とか、どこの都市を応援しようというところまでは決まっておりません。例えば、武蔵野市ですとルーマニアとご縁があって、ルーマニアを応援しようとか、あるいは、調布市ですと、味の素スタジアムで、ワールドカップのとき、サウジアラビアを招聘したので、サウジアラビアとつながっているとか、そういうことがございましたけれども、小金井市の場合、まだそういう事例がございませんので、今、どこの国を応援しようというところまでは決めていないというところでございます。

◎渡邊委員長 よろしゅうございますか。

◎小川委員 はい。

◎渡邊委員長 こういう格好で、国際交流事業の参加人数をいろいろ増やしていきたいと。

◎松本委員 香川県で勤務したことがあるので、うどんといえばやっぱり香川のものだろう、東京でうどんと言われてもぴんときない、と思っています。1食120円で、東京でいえばびかびかのうどんが食べられますから。ただ、売り出すには、原材料がその地域の産なのか、優れた技術がその地域にあるのか、あるいは、つゆの作り方が独特なのかとか、幾つかの要素が絡んできます。伊勢うどんの例もあるし、小金井のうどんを食べたことがないので、これ以上

のコメントは控えておきます。

◎小宮委員 例えば武蔵野うどんとか、何かあるじゃないですか。そういうものを出したりされているんですか。それとも何か、本当に普通のうどんなのか。例えば武蔵野だったら、小金井も武蔵野の地域に入るので、そういう地域のものがありますよみたいなのをPRされたりというのも1つあるのではないかなと思うんですけども。これはあくまでも余談です。

◎渡邊委員長 梶野町の旧農家の方が作られるのを食べたことがあるんですけども、やっぱりおいしいですけどね。独特。それから、この間、小金井公園でゴルフをやったとき、うどんを食べたんですけども、おいしかったです。これは讃岐よりもはるかにおいしい。

◎小宮委員 汗をかいた後はしょっぱいものはおいしく感じるんですよ。

◎沼崎委員 まさに小金井なんかはエニシングさんという前かけの専門店があるので、外国人受けすると思うので、うまく連携すれば、国際交流にも生かせるのかななんて思うんですけども。

◎渡邊委員長 どうですか。再検討してほしいということで、今、具体的な意見が出たということをご参考にしていただきたいということですね。

◎小川委員 国際交流ということで、留学生の活用というか、こちらに来ている方たちといかに交流していくかということで、例えば小学生や中学生への、日本語が十分でない子への指導。例えば外語大なんかだと、日本語も母国語も十分にできている学生が、例えば中国から来た子へ教えるとかというようなことがスムーズにできると、随分、変わってくるのかなと。

今、学校の中の日本語指導は週1回あるかないかですね。3か月ぐらいで切れちゃったりする。なかなか難しいし、かなり多くの外国の子、日本語が十分でないお子さんが入ってきている現状を考えると、交流というようなことも、そういうようなところからできるのかなと思います。

あと、農工大などで、外国から来ている方、留学生、母国に帰るとかなりレベルの高い方たちがいらっしゃっていますね。そういう方たちに、理科の話だとか、自分の国の話だとかをしてもらえるような時間を積極的にお願ひできるといいなと。学校では、結構、いろんなところに声をかけるんですけども、なかなか学校単独でやると難しいというか、うまくいかないようなところがあったりして、そういう団体のところに頼んだりするようなところがあったりする。具体的に言うと、先生は留学生という名称で、外国の方を派遣するようなところに頼んだりかするんだけど、そういうことが、近くにせっきく農工大とか外語大があるのに、できればいいなと思っています。

あと、小金井では、日本語指導の関係のことで言うと、具体的にお名前を出すと、今川先生、いまだにずっと頑張っているじゃないですか。ああいうような方たちの団体とリンクしながらやっていくのも大事なかなと思います。かなりノウハウがあると思うんです。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。具体的なことは向こうの書類に残していただくとして、まとめ方としては、こんな感じでもよろしゅうございますか。

そうすると、小金井市の魅力発信云々の最後のシートですけれども、評価シートの15番ということで、審議会等における公募市民の割合、審議会等における構成委員のうち、公募市民が占める割合ということで、一昨年、昨年、22、23ということで、評価としてB、横ばいということでございます。

これに対して、全員が三角の評価で、コメントがさまざまございます。どなたかいかがですか。小宮さんは、問題ないんじゃないかという感じですか。

◎小宮委員 若者を取り入れたいみたいな言葉が書いてあったので、例えば傍聴とかといっても、結局、なかなか見に来る方もいच्छゃらないというところで、こういう委員会とかもそうなんですけれども、知らないということも多いんじゃないかなと。こんなことをやっているんだとかということ、私なんかは労働組合のそういう役職を担ったりとかしていると、こういうことをやっているとかということを知っている、そういうものに参加したりとかということも、興味を持ったりするんだらうと思いますけれども、ふだん、生活されている方は、なかなかこういう場に出てこようなんていう気持ちはないんだらうと思っています。

何か知ってもらおうという部分で、若者にPRできるものがあれば、こういうところを、強制的にはなかなか難しいのかもしれないですけれども、しっかりこういう市をよくしようとかということ、話し合っているんですよというのを知ってもらうことから、まずスタートなのかなというふうに思ったので、こういうご意見を出させていただいた。なかなか難しいとは思っていますが、これは一朝一夕でいかないので、一步一步、進めていくしかないんだらうなど。あとは学校教育のところの場で、子どもに見てもらおうということも1つかなと。

◎渡邊委員長 沼崎さんは、見える化をしたらどうかということですね。

◎沼崎委員 こんな書き方をしてしまいましたけれども、やっぱりどんなことをするのがイメージできないとは思っています。実際、若者の大半は市報を見ないでしょうから、その募集自体もわからないでしょうし、なかなか伝わらないというのが現状かなと思います。

◎渡邊委員長 そんな意見を受けて、実際の公募市民になった方の感想は、市民がイメージしやすい伝え方の工夫に取り組んでいただきたいと。ホームページやソーシャル・ネットワーキング・サービスの活用などにより、さらなる市民への周知に取り組んでいきたいという格好で、全体の意見をまとめていただいたということで、大体、包含しているんじゃないかなと思うんですけれども、やっぱりこういうホームページとかSNSのパワーというのは強力ですね。要するに、こういう中で、市役所自身が劇場化できるわけですから、ぜひ、そういうことで取り組んでいただければ。15番のまとめ方はこんなことでよろしいですか。ありがとうございます。

次が多様な働き方で、安心して結婚、出産、子育てができるまちという戦略についての評価ということでございます。16番から25番まで、このテーマでございます。

16番が待機児童数ということでございまして、評価としては、164から154で、少し減ったと。B評価であるということ。それに対して、いろんなコメントがございまして。橋田さ

ん、こう書かれていますけれども。

◎橋田委員 書いてあるとおりなんですけれども、入所希望者数が増えているのに減少しているということは、それだけ数字以上に目標達成、数値以上に工夫がなされているのかなと思います。

◎渡邊委員長 松本さんも同じようなことを書かれていますね。その原因がはっきりしないとゼロにできないんじゃないかと。

◎松本委員 政府は先送りしちゃいましたけれども、いろんな難しい問題があるんだろうと思います。

◎渡邊委員長 それで、それぞれのご意見を集約して、積極的な予算措置を行った結果、定員220増を実現したことは評価したいと。待機児童が増加した要因を分析し、今後の駅周辺開発等に伴う人口増加といった長期的な視点を持ち、引き続き、強力に取り組んでいただきたいということで整理していただいたということですが、いかがですか。大体、全体を包含しているような感じがしますが、よろしゅうございますか。

じゃ、次、17番、認定こども園の設置数ということで、ゼロ件、ゼロ園ということで、C評価ということでございます。平成29年4月の開設に向け、開設補助や児童の募集、入所等の準備を行い、適切に開設準備を進めることができたということであり、いろんなご意見がございまして。小川先生、こう書かれていますけれども、さらに。

◎小川委員 私、子ども・子育て会議のほうにもかかわっているんで、実際に本市がどういふふうな流れで待機児童を解消しているか。それから、認定こども園等をやっているかというのをかなり具体的に見ているんですけれども、当局としては、かなり頑張っているなど。少ない予算の中で、いろんな形で頑張っているなど。その辺は、新聞なんかでも、かなり高いところで評価を受けているんですけれども、待機児童はゼロにはなかなかならない。人口の増加の割合を考えると、なかなか難しいところがあるので、市が本当に縦割りではなくて、連携をとっていくと、本当にうまくいくんだろうなというのをすごく感じているので、連携をよろしくお願ひしたいと思ひます。

◎渡邊委員長 松本さんのものは、目標達成はこれでオーケーかと、いや、まだあるだろうという、そういうコメントですね。

◎松本委員 一応、もう達成したというような位置づけになっているんですけれども、この後、どうされるのかなとか。

◎渡邊委員長 というような意見を受けて、まとめていただいたのは、計画的に進捗しており、評価したいと。開園後のサポートとあわせて、優先度の高いテーマであるため、目標達成後も引き続き拡充に向けた取組をしていただきたいという、皆さんのご意見を集約されているんじゃないかと思うんですけれども、こういうまとめ方でいかがですか。よろしゅうございますか。ありがとうございました。

次に、18番、子育て支援ネットワークの参加団体数ということでございます。これは、A

とCがあって、上がAで下がCということですか。上はネットワーク、下は目標的な。要保護児童対策地域協議会ほうまくいかなかったということですね。いろんなコメントがございます。小川さんのものは、二律背反だけれどもということで書いていますが、何かコメントはございますか。小川先生。

◎小川委員 いえ、特に。

◎渡邊委員長 小宮さん、どうですか。何も書いていない。

◎小宮委員 なかなか機関というものを増やすのは難しいとっていて。

◎渡邊委員長 まとめてもらったのは、ネットワーク協議会については、参加団体が拡充していることは評価したいと。今後は支援の質の向上などに取り組むべきと思われる。前回の委員評価でも触れたが、各団体の活動や取組を確認し、支援の効果や成果の見える化に取り組んでいただきたいということでございます。単なる数ではなくて、質みtainなことも何かの格好で評価していただきたいという松本さんのご意見をこういう格好で入れたのかなと思うんですけども、いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございました。

次が19番、冒険遊び場開催回数ということでございます。週5回ということで、A評価ということで、皆さんも高い評価であるということで、地道な努力の結果、目標を達成しており、評価したいと。子どもの支援とあわせて、親同士のつながりや支援にもなるように工夫していただきたいと。今後は、組織的安全管理の検討や、さらなる大学との連携などを引き続き取り組んでほしいという、こういう格好で皆さんのご意見を包含した格好で整理しています。これについて、いかがですか。沼崎さん、何かございますか。

◎沼崎委員 最近、子育て中のお母様たちと接する機会が結構増えているんですけども、子どもの遊び場は結構増えてきているみたいなんです。でも、そういったときに、意外と親同士の交流はないんですよという悩みをおっしゃられる方も多かったので、ここに記載してあるとおり、少し親同士の交流というところも意識するような仕組みができれば、安心した子育て環境という意味で、よりよい環境になるのかなというふうに思います。

◎渡邊委員長 ちゃんのご意見がのっかっていますね。わかりました。一応、この冒険遊び場開催回数については、今後、さらに失敗しないように安全対策等をちゃんとしながら進んでいきましょうということですね。よろしゅうございますね。

そうしたら、次が20番、放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数ということでございます。これは9件、9件で、A評価ということで、小学校での小学校区推進委員会を設置してやってきてございます。これに対して、いろんな意見がございますが、最終的には、積極的な取組を評価したい。今後は議論の結果、生まれたよい取組が見える化し、広げていただきたいと。引き続き、情報交換を密に実施し、さらなる疎通を図られるように取り組んでほしいと。さらなる意思疎通という意味ですか。いかがですか。この疎通というのは、天野さんの教育委員会と市長部局の意思疎通ですね。

◎天野委員 ちょっと補足で説明、お話しさせていただくと、放課後の子どもの居場所づくり

ということであると、市長部局では学童保育というのがあって、教育委員会では生涯学習課というところが放課後子ども教室ということでやっているんです。もともと国のほうが文部科学省、厚生労働省の関係があるんですけれども、そういった同じようなことが行われている中で、もっと意思疎通というか、お互いに協力し合って、うまくやればいいなというような思いを含めて書いたところであります。

◎**渡邊委員長** わかりました。そうすると、さらなる疎通というと、天野さんの言葉の市長部局と教育委員会のさらなる疎通を図られると、そう入れたほうがわかりやすいですね。という修正で、多分、これだけ読んだら、ちょっと頭に入らなかった。

◎**小川委員** 今、天野さんがおっしゃったように、市教育委員会と市長部局のところなんですけれども、私はあえて指導室と入れたんですが、社会教育と指導室も連携をとっていかないと、かなり課題があるんじゃないのかなと思います。指導室というのは学校関係のことをやっている教育委員会ということで、社会教育は社会教育で、生涯学習のところで行っているところなので、取り扱っているところが違うんです。実際に、学校を放課後子ども教室として使っているので、その辺の連携をうまくやっていかないとまずいなと。

それから、実際に放課後子ども教室に携わっている講師の人たちが、もう子育てが終わって、かなり年齢的に上の方たち、小学生でいえば、もう自分の孫よりも小さいような子たちを教えている方たちが頑張っているから、その辺のところも考えていかないと難しいですね。難しいというか、いろいろね。

◎**渡邊委員長** そうすると、さっき言った市長部局と教育委員会の課の名前ですか。指導室と何て言いましたか。

◎**小川委員** 社会教育ですね。生涯学習と社会教育と、いわゆる学校関係のところと一緒に考えていかないと。

◎**松本委員** 質問なんですけれども、生涯学習課というのは、老人だけではなくて、若いほうから上のほうまで全部やる。それと学校教育とどういうふうに重なっていくんですか。

◎**天野委員** 今現在、教育委員会のほうに学校教育部というのと生涯学習部2つあって、学校教育部というのは、当然、子どもたちの学校のところを所管します。生涯学習というのが、いつでも、どこでも、誰もが学べるというコンセプトの下、地域の子どもからお年寄りまでという幅広い、青少年を含むカテゴリーが生涯学習という位置づけになります。ただ、実際にそういう活動をされている方というのはお年寄り、高齢な方が多いので、生涯学習というと高齢者のイメージはあるんですが、青少年も含んだターゲットということにはなります。

◎**松本委員** 文科省の系列とは関係なしにやるんですか。

◎**天野委員** いや、文科省が所管としている、社会教育も含んだ生涯学習です。

◎**渡邊委員長** ありがとうございます。さっき言った、さらなる疎通を図るところの主語を入れていただいて、修正していただくと。

21番、大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数ということで、2校、2校という

ことで増えていないということでございます。これについては、いろんな意見があるんですけども、どのような観点で、どのような取組が実施されているかを示してほしいと。進捗が停滞している原因が不明であり、目標達成に向けたロードマップを提示してほしいと。また、目標達成に向けて、大学側に過剰な負担が発生しないよう、互いのニーズを理解し、進めていただきたいということでまとめてあります。これは何となく、うまくいっていないという感じがあるということで、こうなっていると思うんですけども、C評価ですし、小川先生は、こちら辺が一番よくわかっているんじゃないですか。

◎小川委員 コメントのところは逆じゃないかなと思っているんです。目標達成に向けて、学校側、大学じゃなくて、受ける側、小学校とか中学校に過剰な負担が発生しないようにしてほしいということです。

◎渡邊委員長 前からそれを言われていましたね。

◎小川委員 はい。

◎渡邊委員長 大学の研究のために、現場、協力なんて、そんな余裕ないよと。だから、負担を受けるのは大学であって、大学のほうは、多分、あまり負担じゃないんですね。

◎三島企画政策課主査 申し訳ありません。小学校、中学校という記載に修正します。

◎小川委員 独立法人になってから、こういうのはちょっと多く感じられます。

◎渡邊委員長 僕もちょっと先生方の負担が増えていて、過労死ラインの方が6割近くいるとか新聞で見えるものですから、やっぱりそこは意識しながらやらないと、どうかなと。ちょっとその表現を。こういうことでよろしゅうございますか。ありがとうございます。

22番、よりよい地域社会を目指して地域貢献活動にかかわろうとしている児童生徒の割合ということで、子どものボランティアということでございます。小学校が57.4%で、中学校が44.2%で、評価としてはB、Bということでございます。いろんなご意見がございました。一昨年と比べて、両方とも微増しているわけですけども、全体の意見を整理すると、数値が向上しており、評価できると。実際にどのようなボランティア活動が多いのかなど、内容を示していただきたいと。ボランティア活動を受け入れる団体の拡充や、保護者の意識の向上にもつながる取組など、子どもを取り巻く環境についても取り組んでいただきたいと。新学習指導要領との関係から、教育課程上の位置づけを明確にしていくように、教育現場との連携を図っていただきたいという格好で、かなり具体的な格好でまとめられております。これについては、どうかな。沼崎さん、何かございますか。

◎沼崎委員 何のためにボランティアさせるのかなというところが一番大事かなとは思いますが、地域に関心を持ってもらうのか、社会貢献するということを学んでもらうためのボランティアなのかということだとは思いますが、その観点を明確にさせていただいて、それに合うようなボランティア受け入れ団体が増えてくれば、自然とこの数字も上がってくるのかなというふうに思います。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。小宮さんも、コメント、クエスチョン付きでありま

すけれども。

◎小宮委員 ここに入れ込んでいただいたので、やっぱりボランティア活動をやるというのは、まず親御さんに連れられてというところとかというのも重要なのかなと。うちも実は、労働組合の中の活動の1つで、武蔵野市でよくクリーンキャンペーンというのをやっています、お子さんを連れて、ぜひ来てくださいという形で参加をしてもらったりとかしていますので、そういうところから地道に入っていくと、少し親御さんがそういう活動に興味を示してもらえれば、お子さんを連れていく機会も増えてくるのかなというところで、保護者の方の意識の向上につながるかというのも少し入れていったほうがいいんじゃないかということで、ご意見はさせていただきました。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。松本さんも、ここに全部反映されていると思うんですけれども、いかがですか。ここに書かれているコメント。

◎松本委員 ボランティアと言われている内容自体がよくわからないんですけれども、典型的には災害地へのボランティアとかと言われますが、ここで言っているのは、もうちょっと幅があると思うんです。そんな一定の幅の中で、生徒が何%やったかどうかということをどういうふう把握するのか。あるいは、数字を上げるために何かやっているのか、やっていないのかとか、いろんな要素が絡んで来るテーマではないのかなと思います。若干、疑問符を持ちながら見えています。

◎渡邊委員長 要するに、ボランティア活動というのは、軽々に数値で評価しないほうがいいんじゃないかということですね。

◎松本委員 そうですね。数値評価になじむのかなというのがそもそもです。はめ込みで、押し込みで、ボランティアをやれと言ってやらせるということではないだろうと思います。

◎渡邊委員長 まさにボランティアで。

◎松本委員 ええ。ちょっといびつになる可能性があるのではないのかなという気はします。

◎渡邊委員長 小川先生、まとめて。

◎小川委員 ボランティアというのは、どこか災害地へ行くとかということだけではなくて、具体的に言うと、高齢者の施設の方のところへ6年生が笛の練習をして聞かせにいくとかというようなことをやったり、それから、昔遊びを教えてもらいにわざと行くというようなこと、わざとなんて言うと変ですけれども、意図的に行くというようなことを教育課程の中で位置づける。

教育課程というのは、ここの学校は1年間、こういう考えでこういうことをやりますというのを教育委員会に出すんです。それを教育課程というんですけれども、その中で、こういう目的で、こういうことをやりながら、子どもたちをボランティア活動に結びつけていくというようなことを考えているということです。大事だろうなど。

そういう意味で、新学習指導要領と書いたんですけれども、今度、新しい指導要領が出るんですが、その中で、やっぱりキャリア教育というんですか、ボランティア活動をすることで、

キャリア教育というのは職業教育じゃないんですけれども、キャリアを積んでいくという意味で大事ですよねということが言われるようになりました。そのことで、今度、特別活動というのがわざわざ、1つ項目がまた起こされて、キャリア教育というのが入るんです。あと、新しく言われることになるのが社会に開かれた教育課程という言葉が入ります。

そういう意味で、本当に学校で意図的、計画的に進めて、考えていくことが、ボランティア活動の充実につながっていくんだらうなというふうに思います。

◎松本委員 学校教育の中でも、定義づけのボランティアというのはあるということですか。

◎小川委員 定義づけのボランティアというか、ごみを拾ったり、無償で何かするのがボランティアというようなことではないよねということ。

◎松本委員 そういうふうに、一定の、例えば1とか2とか、ラインナップがあって、それを……。

◎小川委員 それはないです。

◎松本委員 実施することが、この数字の中に入ってくると。

◎小川委員 それは各学校で、その子どもたちの実態とか……。

◎松本委員 選ぶんですね。

◎小川委員 ええ。考えてということですか。

◎松本委員 だから、その全体集合はもう決まっていると。その中から、その学校としては、じゃ、何を具体的にやったんだと。

◎小川委員 いや、それも決まっていないです。

◎松本委員 それは生徒が自主的にやるということなんですか。

◎小川委員 やる部分もありますし、学校が意図的、計画的に考えて、経験をさせるということもあります。

◎松本委員 じゃ、その数字はどうして出てくるんですか。生徒がやったというアンケート回答みたいなものをとっているということですか。

◎小川委員 そのボランティアに関して。

◎松本委員 これは数字が出ていますね。

◎小川委員 例えば中学校なんかですと、例えば市の陸上競技会へのお手伝いだとか、お祭りへのお手伝いとかがあって、手伝いというか、参加というか。

◎松本委員 その生徒の数は知っているんですね。

◎小川委員 はい。

◎松本委員 そのうち5割がという、そのボランティアをやったという人は、どういうふうにしてカウントされるのか、あるいは、そのボランティアの内容が今おっしゃるようなものに合っているものしか入れないのか、それとも何でも。

◎小川委員 学校でやるものに関しては把握できます。それから、子どもたちがどんなものに参加しているかというのは、アンケートではないんですけれども、その都度、人数的な把握はし

ます。別に管理をしているわけじゃないんですけれども、子どもたちが日曜日にこんな活動をしたとかというのは、先生は把握するので……。

◎松本委員 それは、えげつない言い方をすれば、あなたの担任の生徒はボランティアを何割しかやっていないね、あっちの先生はこんなにやっているねと。

◎小川委員 そんなことは言いません。

◎松本委員 要素ではないと。

◎小川委員 校長とか教育委員会ではありません。

◎松本委員 そうですか。

◎小川委員 はい。そんなので子どもを評価するとか何とかということはないです。

◎渡邊委員長 新学習指導要領で、アクティブラーニングという考え方が出てきて、まさにボランティアというのはアクティブラーニングのテーマだと思うんです。だから、今後、結構、重要になってくる分野だと思うので、皆さんのご意見が結構、ふんだんに入った格好でまとめられているので、これでいいんじゃないかと思うんですけれども、まとめ方としてはいかがですか。よろしゅうございますか。ありがとうございました。

次、23番、しごとづくりに関する相談件数ということで、創業相談件数ということで、128件から、去年は141件と増えているということで、A評価ということでございます。前向きな評価を皆さんからいただいています、目標を達成しており、結果は良好であると。今後も指定管理者と連携をとり、事業を進めていただきたいと。職住近接とあわせて、在宅勤務等の働き方改革への注目も高まっており、対応した支援を検討していただきたいと。相談窓口の認知度の増加もあるため、引き続き、相談件数の増加に取り組んでいただきたいということでございます。これについては、小宮さん、たくさん書いてくれていますから、何かコメントをください。

◎小宮委員 在宅勤務は、実はずちの企業のほうも少し進めている段階でありまして、なかなかその技術というものがまずできてからでないといけないというのはわかっているんですけれども、今は介護の問題であったり、在宅だったらお仕事できるのに、行かなくちゃいけないのでやめざるを得ないという方もいっぱいいらっしゃるんだろうというようなことを聞いてございます。ぜひ、そういう視点も、働き方というか、その部分の考え方として1つ入れていただきたいなということで、この意見を出して、まとめのところにも一部入れていただいたのは、私的には、これでいいだろうというふうに思っております。

◎渡邊委員長 ありがとうございました。沼崎さんも、まさに産業育成というのが仕事の一つだと思うので。

◎沼崎委員 私の意見も、もうコメントに書いていただいたとおりなんですけれども、本当にビジョンもしっかりしていて、実行力もある指定管理者なので、このような支援者側の人たちを応援するところを強く意識していただいて、取り組んでいただければ、このあたりの問題は順調に進んでいくのかなと思います。

◎渡邊委員長 どうですか。このまとめ、よろしゅうございますね。ありがとうございます。

次に、24番目、審議会等への女性の参画率ということで、27年度は32.2%で、去年は下がって31.6%、Dという評価を自らされていて、皆さんも三角とかバツテンというのが多いということでございます。社会の変化を反映させるためにも、女性参画の促進は必須、具体的な問題点を考える必要があると。セミナーや相談会、イベント等、接点を増加させることでハードルを下げ、協働できる体制を作るなど、従来とは異なる取組を検討していただきたいという格好でまとめていただきました。松本さんのご意見がほとんど入って、何か松本さん、これについてはございますか。

◎松本委員 文章は特に問題ないと思います。女性が頑張っているし周囲の協力も出てきているけどまだまだなので、先取りで女性の活躍機会、活躍場所を増やしていくんだというのがあったほうがいいとは思っています。

◎渡邊委員長 ほかに、これについて何かコメントはございますか。なければ、こういう格好の整理でよろしゅうございますか。ありがとうございます。

次が、25で、男性職員の育児休業取得率ということでございます。前回は16.7%だったのが13%になっている。使用されている件です。これは、あまり意見がないというのか、でも、16.7から13に下がったから、僕が褒め過ぎたかなと。数値としては良好であり、引き続き、向上に向けて取り組んでいただきたいと。対象となる職員数など、実際の母数も提示してほしいと。育児休暇の取得による市民サービスにおける影響に対し、具体的にどのように対応できるかもあわせて検討してほしいということでございます。これは主として松本さんのご意見が反映されていると思うんですけども、何かございますか。このまとめ方について、松本さん。

◎松本委員 実際の母数を提示してほしいとか、ちょっとよくわからないコメントが入っているんですけども、公務員と民間従業員とはおかれた環境が基本的に違うと思うんです。その違いを無視して公務員についての目標をここに持つてくるということには疑問があるということを申し上げたかったのです。

◎渡邊委員長 こういう格好でよろしいですか。どうぞ。

◎小川委員 ちょっと松本さん、教えていただきたいんですけども、公務員と民間で違うというのは、公務員のほうがとりやすいという。

◎松本委員 そうだろうと思います。公務員の場合、育休をとったからといって直ちに首になることはないでしょう。民間は、そもそもそういう話が切り出せるかどうかというがあるのではないのでしょうか。公務員と民間社員についての実績対比表があればいいのですが、公務員の数字が上がったからといって、民間の数字にそれが効果を発揮するかどうかは、にわかには言えない話ではないのかなというのが私の疑問点です。もちろん民間について何らかの指標を取り上げるなら意義があると思います。

◎小川委員 母数がはっきりしなかったり、男性だから、男性の人数に対してこれだけという

のか、子育て期間を有しているお子さんを持っている男性がこれだけというのか、随分違ってくると思うんです。母数をどこに持っていくかというのはすごい大事だと思うんですけれども、この間、ある研究会で、うちは25%が男性ですという話があったんです。ある会で。いろいろ突き詰めて話をしていたら、5人いて、その中の1人が男性で、確かに25%なんです。ということで、やっぱり母数をはっきりさせていかないと、どういうふうな形で意見を言ったということが、パーセンテージだけでは随分難しいのかなと。逆に、この13%というのはかなり低い数字なのかなという気はしているんですけれども。

◎松本委員 民間の数字がわかりませんから、何とも言えないんですけれども。

◎小川委員 よくわかります。感想です。すみません。

◎渡邊委員長 僕も同じような疑問があって、要するに、結構少ないだろうと。1人がとっただけでがたっとくる、統計量が変わるような気がしていて、何%というよりは、何人中何名とかというほうが実態をあらわすかなとちょっと思ったんですけれども。ということが、ここでは書かれているんじゃないかなと思うんですけれども、母数を提示してほしいという表現です。よろしゅうございますか。

それでは、次が、時代に合った地域を作り、安全、安心に暮らせるまちという基本項目の指標でございます。シートナンバーの27というのが高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数ということで、KPIが定められております。27年度は40件に対して、28年度は30件ということで、両年ともD評価ということでございます。

いろんなご意見があって、丸、三角、バツということがございます。私自身は、丸にしたのは、別にこれは減ること自身が悪くないというのか、これはこれでいいんじゃないのという思いもちょっとあるもので、自らはやらないという意味で丸にしたんです。結果としては、制度の周知に取り組んでいるにもかかわらず、利用者が増えないことについて、何が課題となっているか具体的に提示してほしいと。今後、高齢者人口の増加は明らかであり、介護事業者やリフォーム会社等とのさらなる連携に取り組み、現場のニーズに応じていってほしいと。わかりやすいチラシ作成など、今後の取組に期待したいという格好で、大体、皆さんのご意見が集約されているんじゃないかなと思うんですけれども、たくさん書かれている沼崎さん、どうですか。

◎沼崎委員 取りまとめの仕方はこのままで問題ないかなとは思いますが。どうやって周知しているのかがいまいちわからないんですけれども、届くべき人に届かないと、当然、利用者は増えないわけで、そのあたりの改善をしないと、件数は増えないのかなとは思いますが。

◎渡邊委員長 松本さん、いかがですか。大体反映されていると思うんですけれども。

◎松本委員 文章は問題ありません。なかなか使い勝手が悪いといえますか、手すりをつけたり、浴槽に何かを入れたりするのは、すごく使い勝手が低下していくおそれがあります。事業側がそういうところをどういうふうに分析されていらっしゃるのか教えてもらおうと、この指標を見るのも、もっとわかりやすくなると思うんです。

◎渡邊委員長 そういうことをここに書いているから、今後の。僕はちょっと立場が違うところがあるんですけども、高齢者自ら自立するための支援じゃなくて、自ら自立するという、若干、小さい政府的な発想をしているんです。だから、これは減ることは、自らやっているんじゃないのという思いもちょっとありまして。

◎松本委員 自前でということですか。

◎渡邊委員長 ええ。だから丸にしちゃった。逆に増えないほうがいいんじゃないのと。いろんな意見があっけいかなと思いますけれども、ちょっとこれは、ある意味では独特の意見かもしれないので、こだわりません。まとめ方はこれでよろしゅうございますね。ありがとうございました。

28番、C o C oバスの利用者数ということで、これがちょっとだけ減ってきているということですが、行政としてはD評価ということでございます。いろいろな意見がございます。これについては、市民ニーズと現実的な事業案の見直しを早期に取り組んでいただきたいと。JR中央本線の連続立体交差事業等、地域の環境が変化しているので、見直しが必要であると。市内は狭隘な道路も多く、運用には限界があると。引き続き、問題の分析を継続し、優先順位をつけて検討、改善されることを期待したいということでございます。

これは誰がいいんだろうな。ちょっと私自身でいくと、C o C oバスを使うより、こっちのシルバーパスのほうが便利なんです。ただでと言うよりか。だから、ついそっちを使っちゃうという現実も、実際は結構あるんじゃないかなという気がするんです。だから、増えないのは、それなりの理由があっけ、あえて増やす努力をしなくてもいいという開き直りがちょっと僕はあるんですけども、でも、増えたほうがいいですから。

◎小川委員 C o C oバスはこれで見ると0.何%とかというような意見とか、本当に少ない意見書だと思ふんです。あと、直接、全ての方に聞いたわけではないんですけども、C o C oバスは定員が10人そこそこじゃないですか。（「小さい」と呼ぶ者あり）小さい。そうすると、せっかく20分待っていたのに乗れなかったから、もう次からは、とかというようなことが何回も続くと、だんだんシルバーパスのほうが便利なのでというふうになっていくようなこともあるみたいですね。

◎渡邊委員長 結構、混んでいますか。

◎小川委員 混んでいますね。私、乗りたいなと思って、待っていて、結局乗れなかったり、お譲りしたりということがありました。100円で行けるのはとてもいいんですけども。

以上です。すみません。

◎渡邊委員長 だから、松本さんが5年かけて7%増の目標を挙げること自体、問題があるんじゃないかという指摘をしているわけですけども、そうかもしれないですね。

◎松本委員 やるなら、ちょっと控え目過ぎるんじゃないかなと思います。やらないなら、放っておけばいい。やるんなら、もう少し何か考えるべきじゃないでしょうか。

◎渡邊委員長 でも、まとめ方はこれでよろしいですね。世の中の変化に伴って、少しまちの形も変化しているので、少し検討してください。

次が、29でございます。自主防災組織数ということでございます。ちょっと時間も迫ってきているので、急ぎたいと思いますけれども、取りまとめだけ、防災意識の問題であり、意識が高まれば、結果として組織が作られると。引き続き、全世代向けの取組を実施してほしいと。各地域の自主防災強化へのさらなるバックアップも必要であると。大震災の対策として、組織化されない近隣防災にも焦点を当てるべきではないかということで、皆さんの意見が集約されていますけれども、いかがですか。厳しい評価ですけれども、よろしゅうございますか。

◎小川委員 ぜひ推進していただきたいなというふうに思っています。

◎渡邊委員長 じゃ、すみません、ちょっと飛ばしたいと思います。次が、シート30でございます。これは刑法犯の認知件数でございます。1,290から1,070ということで、DからCになったということでございます。皆さんの意見を受けて、件数の減少は評価できると。効果的な防犯対策を分析し、継続して取り組んでほしいと。市内各校の生活指導主任会等の連携も効果的と思われる。パトロールの実施とあわせて、予算には厳しいと思うが、啓蒙活動につながるイベントの開催も期待したいということで、皆さん方の意見が集約されております。個々に聞きませんので、何かこれ全体で、こういうまとめ方で何か問題があれば指摘していただきたい。よろしゅうございますか。すみません。時間をちょっと間違えました。急ぎます。

次に、認知サポーター数ということで、4,146から4,874で、BからAになったということであります。丸が多くて、三角が少しと。すばらしい結果であり、今後も引き続き取組を強化してほしいと。サポーターの養成とあわせて、認知症の早期の段階での相談を受け付けること等の周知をしてほしいと。認知症の方のフォローは地域全体で取り組むべきものであると、小中学校の講座開催に引き続き取り組んでいただきたいということで、皆さんの意見が集約されているということです。いかがですか。よろしゅうございますか。すみません。

次に、32番、これは地域密着型サービス事業所数ということでございます。28か所で、変わらずCということであります。ただ、ちょっと内容的な変更があるということで、これはあまり意見がなかったんですけれども、平成29年度4月1日時点で4事業所が開設されることとあり、準備段階を評価すると。目標は達成されているので、今後は質の確保や向上を図るための検討をしてほしいと。引き続き、適切な地域密着型サービス事業所の開設に向けて取り組んでいただきたいという格好でまとめてもらいました。よろしゅうございますね。

次が、33でございます。小金井さくら体操の参加者数ということで、510名から774人に増えたということでございます。すばらしい取組で、目標を達成した努力を評価したいと。今後、より拡大していくために、ラジオ体操協会との連携を図ってほしいと。この取組により改善された事例や効果の具体的な事例を示していただきたいということで、皆さんの意見が反映されているのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

34、65歳健康寿命の延伸ということで、これが男性が81.4で、女性が82.5で、D

とCということでございます。健康寿命を延ばすことについては、さまざまな要素が関係するので、これを主軸としつつ、特定健診の検査値等を指標として取り組んでほしいと。健康増進に取り組む地域団体のバックアップや民間事業との連携についても取り組んでほしいという格好であります。いかがでしょうか。いいですか。

次が、35番目、スポーツ教室、スポーツ大会の参加者数ということで、これはかなり増えたということで、DからBに格上げされたということで、結果として増加していることは評価できると。小金井市出身もしくは小金井市にゆかりのあるスポーツ選手を招聘できないかと。課題にあるように、原因分析をしっかりと行い、魅力ある大会として、参加者数の増加に努められたいと。オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成に期待したいということであります。いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

次が36で、これが差し替えになったものでしたか。

◎三浦企画政策課長 こちらは次回か、もしくは次々回でご議論いただければ。今日は配付するだけにとどめたいと思います。

◎渡邊委員長 わかりました。資料ナンバーの36。

◎三浦企画政策課長 資料6です。

◎渡邊委員長 これは次回に、一旦、評価してもらったんですけども、もう一回、再評価ということでございます。

37、ボランティアセミナー参加者数という指標で、191人から183人、若干減ったんですけども、A評価ということで、セミナー参加者数が目標達成していることは評価できると。PDCAサイクルを回す観点からは、引き続き、参加者の増加を指標とし、取り組んでいただきたいと。セミナー参加後の各人の動きなどはどうなっているかと。ボランティアに参加しているか。継続可能なボランティア活動のあり方を考えていただきたいということで、おおよそ皆さんの意見が集約されているんじゃないかと思うんですけども、よろしゅうございますか。

次が、図書館における住民1人当たり図書貸し出し冊数ということで、8冊が8冊ということで、D評価ということであります。これについては、三角、バツが多いんですけども、本を読むことが情報インフラの発展に伴い急激に変化しつつあると。多くの若者は電子情報や電子書籍で読書をしていると。この現状を踏まえれば、むしろ冊数が大きく変動していないことは評価できると。図書館の枠にとらわれない新たな取組を検討してみてもどうかと。岩手県紫波町図書館等ということで、これは沼崎さん。

◎沼崎委員 そうです。私です。

◎渡邊委員長 これをちょっと紹介してください。

◎沼崎委員 岩手県の紫波町、農家と事業者がマッチングできるような拠点として、この図書館が機能していて、地元の野菜を使ったレシピの本がすごいずらっと並んでいると聞いたことがあります。要は人が集まるような仕掛けが自然とできているということです。図書館ホーム

ページを見れば書いてあるんですけども、そういったご紹介をさせていただきました。小金井の図書館らしさを少し考えてみてはどうかというふうに思います。

◎渡邊委員長 市民8冊というのはすごいなという気が実はしているんですけども、変化していないことでいいんじゃないのと、ほかの媒体で読んでいるという気がしていいね。

◎松本委員 図書館の基本的な問題は狭過ぎるということだと思います。本館も貫井北も、すごく狭くて、子どもが走り回ったり、机に向かって勉強している人の後ろへ回って本を探したりしなければいけない。本当に劣悪な環境なので、基本的にはお金をかけて増改築を図ることが必要ではないか。

◎渡邊委員長 まとめはこれでよろしゅうございますか。ありがとうございました。

39、公民館の平均稼働率ということで、58.6から63.0で、Bということでございます。NPO法人委託により、若い世代のニーズを捉えた稼働率アップにつながっていることは評価できると。利用者の固定化に配慮しつつ、引き続き市民活動支援と地域性に合った取組を実施していただきたいということで、皆様のご意見がまとめられているということでございます。どうですか。よろしゅうございますか。

すみません。ちょっと時間配分を間違えてしまって、この後の議題もあるので、一応、今日のところの確認すべき評価シートは2枚の修正がありますが、事務局に任していただくということで、その他の評価シートは承認されたということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

◎委員一同 はい。

◎渡邊委員長 続いては議題3の全体スケジュール等について、事務局よりお願いいたします。

◎三浦企画政策課長 長い時間ありがとうございました。スケジュールの話でございます。今年度につきましては、本日、第一回の推進委員会にて、委員の皆様より評価をいただきました。この作業を第二回、第三回と実施させていただきまして、最終的な完了報告を、10月中を目標にしたいと考えております。第三回の開催を議会開催の日程等も鑑みまして、9月の初旬頃を予定したいと考えております。詳細の日程はまた次回の終了後にご協議をお願いしたいと考えております。

◎渡邊委員長 続いては議題4の次回委員会の開催日について、事務局よりお願いいたします。

◎三浦企画政策課長 議題の4となりますが、次回を7月25日18時から20時に開催をしたいと考えております。その後、第三回を9月初旬に行いたいと考えております。

◎渡邊委員長 委員会を三回実施することはよろしいですね。7月と9月にやります。今回で多くの評価を実施したので、7月は皆様のご意見を聞ける時間をとれるのではないかと思います。9月は最終的に全部をまとめるといった格好で進めて行きたい。それから、事務局より次回の委員会の開催日程について7月25日火曜日18時から開催したいと、場所は601会議

室ですか。

◎三浦企画政策課長 この建物の6階です。601会議室でお願いいたします。ご予定の確保をお願いいたします。

◎渡邊委員長 第4議題の次回委員会の開催については、7月25日火曜日18時から20時までということで、会場はこの建物の601会議室にて開催となります。よろしく申し上げます。

本日の議題につきましては以上となります。何か最後に発言のご希望などございますか。なければ終わりたいと思いますがよろしいでしょうか。それではこれをもちまして終わりいたします。ありがとうございました。

(午後8時10分閉会)